

『竹取物語』 奈良絵本・絵巻の図絵概説

―「月の都の迎え到来」図と「月の都への昇天」図の検討

付 『竹取物語』 奈良絵本・絵巻の伝本（第二稿）―

曾根誠 一

はじめに

『竹取物語』の奈良絵本・絵巻の伝本調査をして、図絵の構図を確認し、分類する研究を始めて、十年余りが経過した。この間、学内の特別個人研究費や科学研究費の支給を得たことで、複製本が刊行されている伝本と、所蔵機関のホーム・ページ等で画像が公開されている伝本に加えて、未公開の伝本調査を、所蔵機関の御高配を得て実施した結果、確認されている伝本全ての調査を済ませた訳ではないが、現時点で40伝本余りの図絵を確認することができた（論文や図録掲載の図絵の確認も含むので、本文の確認伝本数は、若干減少する）。

こうして調査し得た図絵の構図を分類・整理し、検討を加えておくことは、更なる研究の進捗を促すことに繋がります、それなりの意味を有するように思われる。

そこで、「かくや姫の昇天」段の図絵を検討するに先立って、当該段の物語展開をまとめると、次のようになろう。

（Ⅰ）かくや姫、春の初めから、月を見て物思いをし嘆く

〔Ⅱ〕かぐや姫、泣きながら「月の都」の人の素性と、八月十五日の昇天を告白し、翁媪悲嘆する

〔Ⅲ〕帝派遣の二千人の兵士、かぐや姫を守護する

〔Ⅳ〕「月の都」の人、かぐや姫を迎え取るため、子の刻頃に到来する

〔Ⅴ〕かぐや姫、翁媪に手紙を書き残す

〔Ⅵ〕かぐや姫、不死の薬を嘗め、帝に手紙と不死の薬を献上し、天の羽衣を着せられて、「月の都」に昇天する

こうした展開に対して、図絵は多くの場合、〔Ⅰ〕〔Ⅳ〕〔Ⅵ〕の場面を描出している。

本稿では、右の「昇天」段の図絵の内、〔Ⅳ〕「月の都の迎え到来」図と〔Ⅵ〕「月の都への昇天」図について、分類・整理し、検討を加えてみたいと思う。

一

まず、〔Ⅳ〕「月の都の迎え到来」図を検討してみたい。

物語本文としては、「月の都」の迎えの到来は、「子の時ばかり」（午前〇時頃）の深夜なのだが、「百人ばかり」の発する光は、「昼の明さにも過ぎて」「望月の明さを十合せたるばかり」（新編日本古典文学全集本）であるので、図絵に、松明等の照明器具は描かれない。

また、「大空より、人、雲に乗りて下り来て、土より五尺ばかり上りたるほどに立ち連ねたり」「飛ぶ車一つ具したり。羅蓋さしたり」という様子が、図絵に描かれるのだが、この図絵としては、18 伝本 20 図（絵巻 13 伝本 13 図、奈良絵本 5 伝本 7 図）が確認できる（めぐる歴史資料館本には、同一場面の異構図 3 図が貼付されている）ので、その構

図の概要をまとめると、次のようになる（絵巻・奈良絵本の順、及び、その内部は五十音順で掲げた。但し、①⑤は、同一下絵による図絵なので、冒頭に一括して掲げた）。

伝本	人物	姫悲嘆	その他
① 聖徳大学 本絵巻 （長大図）	右上から雲に乗る迎え3人到来（2人が輿を運び、先頭の1人が翳を掲げる）／姫、左袖を胸に当てる。右の翁右手で刀の柄を握る。左に姫、前に侍女3人／守護の兵士15人（屋根に2列各3人、簀子に5人、門の上に2人、門外に2人）。	× 不安 廂座	几帳・棚に本と文箱・屏風・御簾・格子・妻戸／庭に松・木／兵士は兜1・同長刀1・同弓胡籙3・侍烏帽子1・同長刀1・同弓胡籙2・葵烏帽子1・同胡籙1・同弓胡籙2・烏帽子胡籙1・露頭長刀1。合掌3。
② 鉄心斎文 庫本絵巻 （長大図） * 図絵の一部を省略	右上から雲に乗る迎え3人到来（2人が輿を運び、先頭の1人が翳を掲げる）／姫は左袖を胸に当てる。右の翁右手で刀の柄を握る。左に姫、前に侍女3人／守護の兵士15人（屋根に2列各3人、簀子に5人（左側の兵士1人を省略）、門の上に2人、門外に2人、右端1人を省略）。	× 不安 廂座	几帳・棚に本と文箱・屏風・御簾・格子・妻戸／庭に松・木／兵士は兜弓胡籙4・侍烏帽子2・同弓胡籙2・葵烏帽子1・同弓胡籙3・露頭長刀1。不明2。合掌2。
③ 立教大学 小嶋菜温 子氏本絵巻	右上から雲に乗る迎え3人到来（輿の先頭は振り返り、2人目は器を捧げ持ち、最後尾が翳を掲げる）／姫は左袖を胸に当てる。右の翁右手で刀の柄を握る。左に姫、前に侍女2人／守護の兵士5人（簀子に3人、門の上に2人）。屋根不描。	× 不安 廂座	几帳・裨・妻戸・格子／庭に松・木／兵士は兜弓胡籙2・葵烏帽子1・同弓胡籙1・烏帽子弓胡籙1。合掌2。
④ 逸翁美術 館本絵巻	右上から雲に乗る迎え3人到来（2人が輿を運び、先頭の1人が翳を掲げる）／姫は左袖を胸に当てる。右の翁右手で刀の柄を握る。左に姫、前に侍女2人／守護の兵士9人（屋根に3人、簀子に4人、門の上に2人）。	× 不安 廂座	几帳・棚に文箱・屏風・御簾・格子・妻戸／庭に木／兵士は兜胡籙2・侍烏帽子4・同弓胡籙1・葵烏帽子弓胡籙1・烏帽子胡籙1。合掌3。

<p>⑤ 諏訪市博 物館本絵 巻</p>	<p>右上から雲に乗る迎え3人到来（2人が輿を運び、先頭の1人が翳を掲げる）／姫は左袖を胸に当てる。右の翁右手で刀の柄を握る。左に姫、前に侍女3人／守護の兵士6人（屋根に2人、簀子に3人、門外に1人）。</p>	<p>× 不安 廂座</p>	<p>几帳・屏風・御簾・格子／庭に松／兵士は兜弓胡籙1・侍烏帽子長刀1・同弓胡籙1・萎烏帽子胡籙1・同弓胡籙1・烏帽子胡籙1。合掌1。</p>
<p>⑥ 共立女子 大学本絵 巻（長大 図）</p>	<p>右上から雲に乗る迎え11人到来（8人が輿を持ち、1人が真横に付き添う。後尾の1人が翳を持ち、1人は食物を持つ）／姫は右手を差し出す。右の翁は左手を掲げて迎えを見遣る。右に寄り添う姫、周囲に侍女5人／守護の兵士13人（屋根に2人、簀子に5人、庭に3人、門の上に2人、塀の上に1人）。</p>	<p>× 廂座</p>	<p>几帳・襖・屏風・御簾・格子・妻戸・板戸／庭に松・柳／兵士は兜2・同弓2・同胡籙3・同弓胡籙1・侍烏帽子1・同弓1・同弓胡籙1・萎烏帽子胡籙2。合掌2。</p>
<p>⑦ 九曜文庫 本絵巻 （長大図）</p>	<p>右上から雲に乗る迎え9人到来（8人は輿を持ち、最後尾の1人が翳を掲げる）／姫は左袖を胸に当てる。右に姫。翁は廂の端で迎えを見遣る。侍女廂に4人、簀子に2人／兵士11人（屋根・簀子に各3人、門の上に2人、塀の上に1人、門外に2人）。</p>	<p>× 不安 廂座</p>	<p>几帳・襖・御簾・格子・高欄／庭に松／兵士は兜1・同弓2・同弓胡籙2・侍烏帽子2・同弓3・萎烏帽子弓2。合掌無。</p>
<p>⑧ 慶應大学 斯道文庫 本絵巻 （長大図）</p>	<p>右上から雲に乗る迎え10人到来（8人は輿を持ち、最前列の1人は食物を持ち、最後尾の1人が翳を掲げる）／姫は左袖を胸に当てる。姫と翁は寄り添い、翁は振り返って迎えを見遣る。侍女は廂に4人（1人は左手を掲げて見遣り、1人は悲嘆）／兵士10人（簀子に6人、庭に1人、門の上に2人、塀の上に1人）。</p>	<p>× 不安 廂座</p>	<p>几帳・御簾・格子・妻戸／庭に松・柳／兵士は兜2・同胡籙3・侍烏帽子1・同弓1・同胡籙1・同弓胡籙1・萎烏帽子弓1。合掌4。</p>

<p>⑨ 国学院大 学武田本 絵巻(長 大図)</p>	<p>右上から雲に乗る迎え10人到来(8人は輿(輦)を担ぎ、1人が真横に付き添う。最後尾の1人は翳を持つ)／廂は廂に立ち左袖を胸に当てる。前に嬬、右の翁は両手を挙げて嬬をなだめる。嬬の背後に侍女2人、後ろに悲嘆する侍女、様子を見守る下女1人。皆立ち姿／兵士18人(屋根に3人、簀子に4人、庭の右に2人、左に5人、門の上に3人、堀の上に1人)。</p>	<p>× 不安 廂立</p>	<p>翁頭巾を被る。几帳・屏風・格子・妻戸／庭に松／兵士は兜1・同弓2・侍烏帽子1・同弓1・同弓1・同弓胡縁3・烏帽子1・同弓胡縁1・萎烏帽子弓3・同弓胡縁2・風折烏帽子弓1・同弓胡縁1・露頭弓胡縁1。合掌5。</p>
<p>⑩ 国学院大 学ハイド 本絵巻 (長大図)</p>	<p>右上から雲に乗る迎え9人到来(8人は輿を持ち、最後尾の1人が翳を持つ)／嬬は左袖を胸に当て、右の翁は左手を掲げて迎えを見遣る。嬬は両手を挙げて見遣る。前に侍女5人／兵士12人(屋根に4人、簀子に5人、門の上に2人、堀の上に1人)。</p>	<p>× 不安 廂座</p>	<p>几帳・襖・屏風・御簾・格子・妻戸・高欄／庭に松・遣水／兵士は兜2・同弓胡縁4・侍烏帽子3・同弓胡縁2・露頭1。合掌3。</p>
<p>⑪ チェスタ！ ピーナイJ 125 本絵巻 (長大図)</p>	<p>左上から雲に乗る迎えの飛天7人と[車]到来。左端に雷神／嬬は右袖を顔に当て、翁は左手で、嬬は両袖で顔全体を被う。右手を顔に当てる童、侍女3人(1人悲嘆)／迎え討つ侍15人(屋根に2人、堀の上4人、庭に7人、倒れ臥す2人)。</p>	<p>○ 悲嘆 廂座</p>	<p>飛天は右から蓮花・天の羽衣の箱・車担当・不死の葉・車担当・太鼓・墨壺と筆を持つ／侍は侍烏帽子2・風折烏帽子3・露頭1・同弓1・同弓矢3・同長刀2・同棒1・同倒臥2。合掌無。</p>
<p>⑫ 立教大学 本絵巻</p>	<p>右上から雲に乗る迎え9人到来(8人は輿を持ち、最後尾の1人は翳を掲げる)／嬬は顔を伏せ、左袖を胸に当てる。翁と嬬は、振り返って迎えを見遣る。廂に侍女3人、簀子に童2人／兵士不描。</p>	<p>× 不安 廂座</p>	<p>几帳・襖・御簾・格子・妻戸・高欄／門外に松。</p>
<p>⑬ 小学館本 画帖(元 絵巻)</p>	<p>右上から中央に雲に乗る迎え7人と[車]到来／嬬は嬬に守られ、翁は廂の端で泣き臥す。侍女1人／兵士7人(屋根の上)。</p>	<p>× 廂座</p>	<p>格子・板戸／兵士は兜2・侍烏帽子1・烏帽子弓胡縁1・同長刀1・露頭2。合掌無。</p>

<p>⑭公文教育 研究会本 (見開き 図)</p>	<p>右上から中央上部に、雲に乗る迎え6人と[車]到来(車の前に2人、横に翳を持つ1人、その後ろに3人)／[姫]は[簀子]に立ち、迎えを見遣る。(翁・姫・侍女は不描)／守護の兵士18人(屋根に3人、庭に6人、塀の上に1人、門の上に3人、門下に5人)。</p>	<p>× 簀子立</p>	<p>格子／庭に松／兵士は兜5・同弓1・同胡縁1・同弓胡縁2・同長刀1・露頭6・同弓胡縁1・同長刀1。合掌3。</p>
<p>⑮実践女子 大学本 (見開き 図)</p>	<p>[左上から]雲に乗る迎え2人到来(前後で輿を持つ)／姫は右袖を胸に当てて迎えを見遣る。翁と姫も廂から見遣る。侍女2人は顔を見合わせ、1人は迎えを見遣る／兵士不描。</p>	<p>× 不安 廂座</p>	<p>几帳・格子／庭に松・木、池。</p>
<p>⑯中京大学 本(見開 き図)</p>	<p>右上から雲に乗る[男姿]の迎え5人到来(4人は輿(輦)を担ぎ、1人は付き添う)／[姫]は廂に立ち、翁は左手、姫は右手を姫に差し出し、3人の侍女が囲む／兵士14人(屋根に4人、簀子に4人、庭に1人、門の上に1人、塀の上に1人、門の下に3人)。</p>	<p>× 不安 廂立</p>	<p>屏風・襖・格子・妻戸・高欄／兵士は兜5・同胡縁1・同弓胡縁1・同長刀3・露頭4。合掌3。</p>
<p>⑰めぐろ歴 史資料館 本第14図</p>	<p>右上から中央に雲に乗る迎え5人到来(乗り物不描)。先頭の1人は笙を吹く／姫は左端の廂に座り、左袖を胸に当てる。その右に姫。侍女1人・翁不描／庭に抜刀の兵士6人。</p>	<p>× 不安 廂座</p>	<p>兵士は侍烏帽子5・露頭1。</p>
<p>⑱めぐろ歴 史資料館 本第15図</p>	<p>右上から中央に雲に乗る迎え5人到来(輿1台。先頭と最後尾の2人は笙を吹き、右から2人目は羅蓋を差し掛ける)／侍烏帽子直垂姿の翁は簀子に座る。姫姫・侍女不描／庭に抜刀の兵士5人。</p>	<p>× 姫不描</p>	<p>兵士は侍烏帽子4・露頭1。</p>

<p>⑱ めぐる歴 史資料館 本第16図</p>	<p>右上から中央に雲に乗る迎え7人到来〔輿2台〕。先頭の1人は羅蓋を差し掛け、2人目は笙を吹く。／姫と左の翁は、簀子で両袖を顔に当て、右の姫は、左袖を胸に当てる。侍女1人／庭に冠直衣の勅使、兵士4人。</p>	<p>○ 悲嘆 簀子立</p>	<p>勅使は右手に袋を下げる。兵士は侍烏帽子4。</p>
<p>⑳ 立教大学 小嶋菜温 子氏丙本</p>	<p>右上から雲に乗る迎え到来（輿の前に4人、その後ろは雲に隠れて不明）。輿の上に天蓋・幡／姫・翁・姫・侍 女不描／兵士3人（屋根の上）。</p>	<p>× 姫不描</p>	<p>兵士は兜1・露頭1・不明1。</p>

右の概要に基づいて、「月の都の迎え到来」図（以下、「到来」図と略称する）の構図を分類・整理してみたい。まず、「月の都の迎え」が到来する方向を確認すると、右上からの到来図16伝本18図（絵巻12伝本12図、奈良絵本4伝本6図）、左上からの到来図2伝本2図（⑪CBL本と⑮実践女子大本）となっており、右上からの構図が基本的類型であることが判明する。

その理由を考えると、絵巻は、右から左へと巻物を繕きながら鑑賞、読み進める形式のものである。その図絵の右端上部に描かれる、雲に乗る「月の都の迎え」が最初に眼に入り、読者は関心を抱いて、絵の世界に引き込まれて行く。更に緋いて、守護のために派遣された兵士の姿を見ながら、左端の廂に描かれるかぐや姫と翁姫の姿を確認して、図絵の全体を理解することになるのである。

冊子本も、右から左へと読み進める形式は、同一といえるのだが、図絵全体の構図が一目で確認できてしまう点で、物語世界への吸引力は、絵巻に劣ると評さざるを得ない。

尚、左上から「月の都の迎え」が到来する2伝本の構図の意味については、既に「絵巻において、右からではなく左から現れる事象には、この異常さが示されている」(426頁)⁽²⁾という指摘があるが、後述する「月の都への昇天」

図を検討する時に、かぐや姫が左上に「昇天」する図絵と併せて、考えることにしたい。

次に、到来した「月の都の迎え」の様子を確認すると、飛天として描かれる⑪CBL本絵巻を除く19図は、物語本文に従って、雲に乗る立ち姿で描かれている。その人数は、絵巻は9人前後（3人5伝本、7人2伝本、9人3伝本、10人2伝本、11人1伝本）、奈良絵本は6人前後（2人1伝本、5人3伝本、6人1伝本、7人1伝本、4人+1伝本）であり、絵巻の方が多くなっているのは、料紙の横幅が長く、紙幅に余裕があるためであろう。そして、「迎え」の姿は、⑫中京大本の「男姿」を除くと、異郷である「月の都」の女性として、地上世界とは異なる服装で描かれている。

また、「迎え」の持ち物を確認すると、絵巻では、「輿」を描く11伝本は全て、翳を先頭か最後尾が「輿」に差し掛けるか、持っているのを基本として、⑬立教大小嶋本は、2人目が器を捧げ持ち、⑭共立女子大本と⑮慶応大斯道本は、最後尾と先頭が食物を乗せた器を持っている。それに対して、「車」を描く伝本では、飛天として描く⑯CBL本は、右から花・天の羽衣の箱・不持（車担当）・不死の菓の壺・不持（車担当）・太鼓・墨壺と筆を持っているように、物語展開と関連する品物も含めて、多様に描かれるが、⑯小学館本は、7人全員が何も持っていないようである⁽⁴⁾。

奈良絵本では、「車」を描く⑯公文教研本で、横に立つ者が翳を持っており、乗り物を描かない⑰めぐろ歴資本第14図では、先頭が笙様の楽器を持ち、⑱めぐろ歴資本15図では、先頭と最後尾が笙様の楽器を持ち、最後から2人目が「輿」（輦不描）に羅蓋を差し掛け、⑲めぐろ歴資本第16図では、輿が2台（輦不描）描かれ、左の弁柄色の先頭が羅蓋を差し掛け、2人目が笙様の楽器を持つ。⑳立教大小嶋内本では、輿の輿側から羅蓋と旗が差し掛けられている。

物語本文に従えば、「月の都の迎え」は、雲に乗って降臨しながら、「飛ぶ車」一台を携行しており、かくや姫の引き取り交渉が、「王とおほしき人」の言葉尻を捉えた翁の異議申し立てによって難行すると、業を煮やして「屋の上に飛ぶ車を寄せて」、姫に語りかけていることから、到来の当初から「王とおほしき人」は、乗車していたことが知られ、「車に乗りて」と、姫も同乗して月の都に昇天することになる。だが、「到来」図において、「王とおほしき人」が乗車している姿が描かれた伝本は、後述する「月の都への昇天」図を含めて皆無である。

その乗り物を確認すると、物語本文では「飛ぶ車」と明示されているのだが、不描の⑰めぐる歴資本第14図を除く図絵を見ると、「輿」15伝本16図（絵巻11伝本11図、奈良絵本4伝本5図）、「車」3伝本3図（⑪CBL本、⑬小学館本、⑭公文教研本）であり、本文とは乖離する「輿」が基本的類型なのである。

平安貴族社会において、貴族の乗り物は「牛車」であり、帝や上皇の乗り物は「輿」であった。それを踏まえて、月の都の「王女」⁽³⁾（内親王）と思しき、高貴なかくや姫に相応しい乗り物として、「輿」が選り取られたのであろう。「飛ぶ車」は、それ自身が飛行機能を有するために、この操作に専念する人は不要であったろうし、更に、図絵では、雲に乗った状態で描かれるために、操作する人は描かれていない（⑪CBL本は、「月の都の迎え」の何も持たない飛天2人が、「車」の前方右と後方に配置されている）。それに対して、「輿」（肩で担ぐ）場合は「輦」は、それを運ぶ人が必要とするのであり、その持ち運び方も一様ではない。

そこで、運搬方法を基準にして分類するとともに、人数を記すと、次のようになる。

【右上からの到来】図 18伝本

（裾で運ぶ）①聖徳大本（前後2人）、②鉄心齋本（前後2人）、④逸翁美本（前後2人）⑤諏訪博本（前後2人）
（4伝本）

〈雲が運ぶ〉③立教大小嶋本（運搬者無し）、⑬小学館本（運搬者無し）、⑭公文教研本（運搬者無し）、⑮めぐろ歴資本15図（運搬者無し）、⑯めぐろ歴資本16図（運搬者無し）（4伝本5図）

〈袖で持つ〉⑥共立女子大本（前後9人）、⑧慶応大斯道本（前後8人）、⑩国学院大ハイド本（前後8人）、⑫

立教大本（前後8人）、⑳立教大小嶋丙本（前に4人+a）（5伝本）

〈掌で持つ〉⑦九曜本（前後8人）（1伝本）

〈肩で担ぐ〉⑨国学院大武田本（前後9人）、⑯中京大本（男姿前後4人）（2伝本）

〈乗り物不描〉⑰めぐろ歴資本14図（1伝本）

【左上からの到来】図 2伝本

〈掌で持つ〉⑮実践女子大本（前後2人）（1伝本）

〈雲が運ぶ〉⑪CBL本（1伝本）

右の分類で、最も事例が多いのは、〈雲が運ぶ〉5伝本6図（「左上到来」図1伝本）であり、以下、〈袖で持つ〉5伝本5図、〈裾で運ぶ〉4伝本4図（同一の下絵に基づく伝本）、〈肩で担ぐ〉2伝本2図、〈掌で持つ〉2伝本2図（「左上到来」図1伝本）、の順となっている。

また、「輿」及び「輦」を運ぶ迎えの人数を確認すると、8人6伝本、2人5伝本、4人1伝本、4人+a 1伝本となっている。前後4人ずつの8人を主としつつ、前後1人づつでも、〈袖で持つ〉〈裾で運ぶ〉ように、輦は掌で直接に持たない構図が基本的類型なのだといえよう。その理由は、高貴なかぐや姫の乗り物の輦を、素手で持ち運ぶことは、恐れ多く回避されたためであろう。

尚、「王とおぼしき人」が乗って到来し、かぐや姫が同乗して月の都に帰還する「車」乃至「輿」は、物語本文通りの1台乃至1挺が描かれるのが原則である中で、⑰めぐろ歴資本14図が、乗り物を不描である一方で、⑲めぐ

ろ歴資本16図が、弁柄色と深緑色の2台の「輿」を描いているのは、「王とおぼしき人」とかぐや姫が、個別に乗るためなのであろうが、両図ともに類例のない構図として注意されよう。

次に、「月の都の迎え到来」に対するかぐや姫の対応を分類すると、「座る」場合と「立つ」場合に大別され、姫が不描の⑮めぐろ歴資本15図と⑳立教大小嶋丙本を除く18図を、更に細分すると、次のようになる。

【座る姿】 14 伝本15 図

〈左袖を胸に当てる〉①聖徳大本、②鉄心斎本、③立教大小嶋本、④逸翁美本、⑤諏訪博本、⑦九曜本、⑧慶心大斯道本、⑩国学院大ハイド本、⑫立教大本、⑰めぐろ歴資本14図（10 伝本）

〈右手を差し出す〉⑥共立女子大本（1 伝本）

〈右袖を顔に当てる〉⑪CBL本、⑬小学館本（2 伝本）

〈右袖を胸に当てる〉⑮実践女子大本（1 伝本）

〈簀子で両袖を顔に当てる〉⑲めぐろ歴資本16図（1 伝本）

【立ち姿】 3 伝本3 図

〈左袖を胸に当てる〉⑨国学院大武田本（1 伝本）

〈簀子で見上げる〉⑭公文教研本（1 伝本）

〈右手を差し出す〉⑯中京大本（1 伝本）

かぐや姫が【座る姿】の構図は、14 伝本15 図確認され、これが基本的類型であるのに対して、【立ち姿】の構図は3 伝本3 図に留まり、姫が描かれる場所は、廂の15 伝本16 図が基本的類型であるのに対して、簀子に描かれるの

は、⑭公文教研本の【立ち姿】（翁姫不描）と、⑲めぐろ歴資本16図の【座る姿】（翁姫も簀子に座る）2図だけとなっている。

【座る姿】の構図の基本的類型は、袖を胸に当てる物思いする、「不安な心情」を表現するもののだが、既述したように、かぐや姫の「迎え」は、右上から到来する構図が基本的類型である以上、姫は左端で右を向いて座ることになるために、鑑賞者から見て理解し易い（左袖を胸に当てる）構図10伝本10図が、描かれることになったのであろう。それに対して、左上から到来する構図である⑮実践女子大本では、かぐや姫は右側の廂で、左を向いて座っているために、（右袖を胸に当てる）ことで「不安な心情」を表現している。

⑪CBL本では、（右袖を顔に当てる）ことで、嘆き悲しむ「悲嘆の心情」を表している。⑬小学館本は、画像が不鮮明で判断しにくいのだが、右袖を顔に当てる（「悲嘆の心情」）ように思われる。また、（簀子で両袖を顔に当てる）⑲めぐろ歴資本16図は、「悲嘆の心情」をより強調した表現となっている。

尚、（右手を差し出す）⑥共立女子大本は、右に座る姫が、かぐや姫の左手に手を添えており、姫の「不安」が現実のものとなった、切迫した心情を表現しているのであろう。

【立ち姿】の構図で、かぐや姫は2伝本で廂に描かれ、⑨国学院大武田本では、左袖を胸に当てる不安に駆られる姫の前に姫が立って慰撫し、翁はその右に立って両手を挙げ、この場の雰囲気沈静化を図ろうとしている。⑯中京大本では、右手を差し出すかぐや姫の右に翁、左に頭巾姿の姫が立って、それぞれ左手と右手を差し出し、姫を慰撫しようとしている。【座る姿】に較べると、かぐや姫の「不安な心情」は、より昂進しており、強調される構図となっているといえよう。

ただ、⑭公文教研本の簀子に立つかぐや姫の場合は、事情が異なるようである。簀子に独り立つかぐや姫の頭上に、

「車」を伴った「月の都の迎え」6人が、雲に乗って描かれているのだが、その先頭に立つ「迎え」は、真下の姫を見下ろしている。こうした構図は、他に類例のない独自のものである。或いは、「王とおぼしき人」が「屋の上」に飛ぶ車を寄せて、「いぎ、かぐや姫、穢き所に、いかでか久しくおはせむ」と呼びかけ、「姫抱きてゐたるかぐや姫、外にいでぬ」という場面を描いた図絵なのかも知れない。物語本文に記される庭に腹這いに臥す翁と、かぐや姫を見送る姫が省略されているのは、横幅の狭い奈良絵本故の紙幅の都合もあるうし、かぐや姫に焦点を絞り込んだ結果であると考えられるのだが、「王とおぼしき人」を女性として描いているとしたら、その理由は、「迎え」は、男性が輿を担ぐ⑯中京大本を除いて、全て女性の姿で描かれていることと、関連しているように思われる。

次に、「迎え到来」図に描かれる翁の行動を分類すると、次の通りである（翁を不描の⑭公文教研本、⑰めぐろ歴資本14図、⑳立教大小嶋丙本を除く）。

【座る姿】 14 伝本15 図

- 〈右手を刀の柄に添える〉①聖徳大本、②鉄心齋本、③立教大小嶋本、④逸翁美本、⑤諏訪博本（5 伝本）
- 〈左手を掲げ「迎え」を見遣る〉⑥共立女子大本、⑩国学院大ハイド本（2 伝本）
- 〈「迎え」を見遣る〉⑦九曜本、⑱めぐろ歴資本15 図（簀子）（2 伝本）
- 〈振り返って「迎え」を見遣る〉⑧慶応大斯道本、⑫立教大本、⑮実践女子大本（3 伝本）
- 〈左手を顔に当てる〉⑪CBL本（1 伝本）
- 〈倒れ伏す〉⑬小学館本（1 伝本）
- 〈両袖を顔に当てる〉⑲めぐろ歴資本16 図（簀子）（1 伝本）

【立ち姿】 2伝本2図

〈両手を挙げる〉⑨国学院大武田本（1伝本）

〈左手を差し出す〉⑩中京大本（1伝本）

翁が【座る姿】図の基本的類型は、到来する迎えを（見遣る）構図であり、廂から警戒しつつ（見遣る）2伝本を基本としながら、〈左手を掲げ見遣る〉ことで、その行動を強調する2伝本が描かれ、更に、驚きを以て事態を受け止める（振り返って見遣る）構図3伝本が描かれたのであろう。

〈右手を刀の柄に添える〉警戒する構図は、5伝本で確認されるのだが、これらは同一の下絵に基づいて描かれているので、一般的な構図として受容された訳ではないようである。

また、〈左手を顔に当てる〉〈倒れ伏す〉〈両袖を顔に当てる〉各1伝本は、「迎えの到来」を悲嘆している点では、一致しているながら、その表現方法を「左手」「両袖」「倒れ伏す」と変えることで、悲嘆の程度を深化させているのであろう。

翁の【立ち姿】図は、かぐや姫の「不安な心情」が強調された表現なのだが、〈両手を挙げる〉⑨国学院大武田本は、この場の雰囲気沈静化を図ろうとしていると考えられることは、既述した。〈左手を差し出す〉⑩中京大本は、不安に駆られるかぐや姫を慰撫しようとしているのであろう。

次に、姫の行動を分類すると、次の通りである（姫を不描の⑭公文教研本、⑮めぐろ歴資本15図、⑯立教大小嶋丙本を除く）。

【座る姿】 14伝本15図

〈姫の左で見遣る〉①聖徳大本、②鉄心齋本、③立教大小嶋本、④逸翁美本、⑤諏訪博本（5伝本）

〈姫の右で見遣る〉⑮実践女子大本、⑰めぐろ歴史資本14図、⑲めぐろ歴史資本16図（3伝本）

〈姫の右で右手を取る〉⑥共立女子大本（1伝本）

〈姫の右で右手を差し出し見遣る〉⑦九曜本（1伝本）

〈姫の右から両手を差し出す〉⑧慶応大斯道本（1伝本）

〈翁の右で両手を挙げて見遣る〉⑩国学院大ハイド本（1伝本）

〈姫の右で両袖で顔を覆う〉⑪CBL本（1伝本）

〈翁の右で左袖を上げて見遣る〉⑫立教大本（1伝本）

〈姫を抱える〉⑬小学館本（1伝本）

【立ち姿】2伝本2図

〈姫の右で右手を差し出す〉⑨国学院大武田本（1伝本）

〈姫の左で右手を差し出す〉⑯中京大本（1伝本）

嬸が描かれる構図についてまとめると、〈見遣る〉図は、かぐや姫の左右の位置の相違に有意差はなく、7伝本8図が確認される（①～⑤の5伝本は、同一下絵に依る図絵）。〈右手を差し出し見遣る〉⑦九曜本と、〈左袖を上げて見遣る〉⑫立教大本も、〈見遣る〉に包含されよう。

〈手を差し出す〉構図は、【座る姿】【立ち姿】や片手と両手の相違に有意差はなく、姫の「不安な心情」を慰撫するためであり、3伝本3図が確認される。これから派生した構図が、〈右手を取る〉⑥共立女子大本となり、〈姫を抱える〉⑬小学館本が究極の構図であるといえよう。

〈両手を挙げる〉⑩国学院大ハイド本は、姫の驚きを表現しており、〈両袖で顔を覆う〉⑪CBL本は、悲嘆の深さを表現しているよう。

このように理解する時、姫の行動は、〈見遣る〉9伝本10図、〈手を差し出す〉及びその派生構図である〈右手を取る〉〈姫を抱える〉慰撫5伝本5図、〈両袖を上げる〉驚嘆1伝本1図、〈両袖で顔を覆う〉悲嘆1伝本1図の4種類に分類できるのであり、〈見遣る〉か、かぐや姫の不安を「慰撫」する構図が、基本的類型ということになる。

一一

物語本文としては、「月の都の迎えの到来」図の後は、〈V〉「かぐや姫、翁姫に手紙を書き残す」場面へと展開するので、この図絵について、構図の概要をまとめると、次のようになる。

伝本	人物	その他
①藤早弓氏本	姫は左を向いて手紙を書く。左に侍烏帽子の翁。屋根に飛ぶ車。* 姫・迎え・兵士不描 * ②③と同一下絵	簀子・格子。庭に草。
②名古屋大 学本	姫は左を向いて手紙を書く。左に頭巾の翁。屋根に飛ぶ車。* 姫・迎え・兵士不描 * ①③と同一下絵 (近世後期の転写本)	簀子・硯箱・板戸。
③藤井隆氏 本	姫は書いた手紙を、左に座る頭巾の翁との間に置く。屋根に飛ぶ車。* 姫・迎え・兵士不描 * ①②と同一下絵	簀子・板戸。
④立教大学 貼交屏風 本	左上から雲に乗る迎え2人到来し (乗り物不描)、姫は雲に乗って左を向き、右手に筆、左手で紙を持ち手紙を書く。雲上に、不死の葉の壺と天の羽衣の箱あり。迎えは琵琶と蓮花を持つ / 庭で俯せに倒れ臥す翁姫 / 兵士不描	簀子・板戸。

描かれる人物は、同一下絵に基づいて描かれた①～③については、かぐや姫と翁の2人だけであり、その姫は、①工藤本では、筆を右手に持ち、左手で紙を立てて手紙文を書き、その様子を、翁は見守っている。それが、②名古屋大本では、左手で持つ紙を膝に乗せて、書かれた文字が縦線で表現されている。また、他の2伝本にはない「硯箱」が描かれている。③藤井本では、書かれた手紙が折り畳まれて、長方形のその表面に書かれた文字が、点線で表現されている。

また、④立教大貼交本では、かぐや姫は、迎えの2人と共に雲上に描かれ、右手の筆で手紙文を書き、その文字が左手で持つ紙に点線で描かれ、翁は、庭に倒れ臥している。

この「手紙」は、描かれている人物から判断して、かぐや姫が翁の悲嘆を慰めるために書き残したものと考えられるのだが、物語本文では、姫は「心惑ひて泣き伏せる」翁に近づいた時点で認めているのであり、場所が相違している。こうした差異は、絵師の判断、換言すれば、図絵の論理に従って描かれた結果なのである。

また、「飛ぶ車」を描かない④立教大貼交本を除くと、「車」は、①工藤本③藤井本では、屋根の上に乗る状態で、車輪が両輪ともに描かれているのに対して、②名古屋大本では、屋根の向こう側に描かれているため、車の車輪を省略した下部は遮られて、描かれていない。

以上指摘した手紙の状態の相違や、「飛ぶ車」の有無や描かれ方の相違は、絵師の判断で変更が可能な範囲の事柄であるにも拘わらず、特に①～③の人物と車や建物の配置の構図が、同一であることから判断すると、同一の下絵に基づいた図絵であると判断されよう。

尚、①～③が姫や月の都の迎えに加えて、守護の兵士達も省略された、簡略化された図絵であることを勘案すると、嫁入り本として作製されたと考ええるより、草紙屋が市販した奈良絵本と考える方がよいのかも知れない。

三

次に、〈VI〉「かぐや姫、不死の薬を嘗め、帝に手紙と不死の薬を献上し、天の羽衣を着せられて、「月の都」に昇天する」図、所謂「月の都への昇天」図について、検討を加えてみたい。

物語本文としては、かぐや姫は、不死の薬を「いささかなめ」て、体内を流れる時間が月の都のそれへと転換し、帝が姫を地上世界に留めるべく、兵士を派遣した配慮に対する謝礼と、昇天の事情を記した手紙に、「壺の薬をへて、頭中将呼び寄せて奉ら」せ、「天人」を介して、中將が受け取ると同時に、「天の羽衣」を着せられた姫は、「物思ひなくなり」、「翁を、いとほし、かなしと思しつることも失せ」て、「車に乗りて、百人ばかり天人具して」昇天することになる。

しかしながら、実際に描かれた「月の都への昇天」図27伝本27図は、物語本文と齟齬する事例が多く、それも含めて、構図の概要をまとめると、次のようになる。

伝本	人物	悲嘆	複数場面	その他
<p>①慶応大 屏風本・ 左9図 (元絵巻)</p>	<p>姫は[車]の後ろに立ち、振り返らず右上に昇天。雲に乗る迎え9人。翳を姫の頭に差し掛ける2人、楽器を演奏する6人／翁唄は左手を顔に当て(翁の背後に、姫の形見の衣)、侍女2人は庭で嘆き臥す／兵士4人、翁家従者2人 ★勅使高野大国と天人が庭に並び立つ。翁唄の前の簀子に、手紙と不死の薬の壺。</p>	<p>○右上昇天／姫は車の後ろを置く</p>	<p>★簀子に手紙と薬を置く</p>	<p>兵士は、塀上に侍烏帽子鎧2・梯子を登る侍烏帽子鎧1・庭に座る菱烏帽子弓胡録1・侍烏帽子従者2(槍1)。</p>

② 国学院大 学小絵巻 本	<p>姫は[車]の後ろに立ち、振り返らず、[左上]に昇天。[迎え]不描／廂の端で[翁]は合掌する。侍女は、右袖を顔に当てる1人、後ろ姿1人／屋根に兵士5人</p>	× 左上昇天／姫は車の後ろ	×	兵士は、鎧兜2・鎧兜弓1・菱烏帽子1・露頭1。[合掌]2。
③ 国会図書 館本絵巻	<p>姫は[車]に乗って振り返り、右上に昇天。雲に乗る迎え6人は、右から箆葉・横笛・翳・笙・花を持つ／翁は左袖を顔に当てる。侍女不描／屋根に脱力した兵士3人 ★左端の迎えは、手紙と不死の薬の壺を、庭に立つ勅使高野大国に差し出す。</p>	○ 右上に昇天／姫は車	★手紙と薬を勅使に渡す	兵士は、鎧兜1・鎧兜弓胡籙1・侍烏帽子鎧1。
④ 真田宝物 館本絵巻	<p>姫は輿に乗って振り返り、[左上]に昇天。雲に乗る迎え9人。8人が輿を手で持ち(2人振り返り)、最後尾は翳を差し掛ける／翁は右手を顔に当てる。侍女は右袖を胸に当て、下女は俯く／庭に兵士3人</p>	○ 左上に昇天／姫は輿	×	兵士は、侍烏帽子鎧弓胡籙2・侍烏帽子鎧1。
⑤ 泉屋博古 館本絵巻	<p>姫は[車]に乗り振り返らず、[顔不描]、[左上]に昇天。雲に乗る迎え19人、11人は楽器を持ち、車の後ろは天蓋を差し掛け、最後部から2人目は旗を持つ／廂に立つ翁と頭巾の姫は袖を顔に当てる／兵士は簀子に3人、庭に2人 ★雲の下部に立つ迎えは、手紙と不死の薬の壺を勅使高野大国に渡そうとする。</p>	○ 左上に昇天／姫は車	★手紙と薬を勅使に渡す	兵士は、鎧兜長刀2・鎧兜1・菱烏帽子鎧1・露頭弓胡籙1。
⑥ 東京大学 本絵巻	<p>姫は[車]に乗って振り返り、右上に昇天。雲に乗る迎え5人、右から団扇・箆葉・食物・笙・羅蓋を持つ／廂の翁は左袖、姫は右袖で顔を被う／兵士は門上に2人、塀上に1人、門外に2人 ★簀子に立つ迎えは、手紙と不死の薬の壺を、勅使高野大国に渡そうとする。</p>	○ 右上に昇天／姫は車	★手紙と薬を勅使に渡す	兵士は、鎧兜弓胡籙2・菱烏帽子鎧弓胡籙2・菱烏帽子鎧胡籙1。

<p>⑦福岡市美術館本 (長大図)</p>	<p>姫は輿(輦)に乗って振り返らず(顔不描)、左上に昇天する。雲に乗る迎え11人は、翳2・笙・縦笛・太鼓・横笛を持ち、輿は男4人で担ぐ／廂に立つ翁と頭巾の姫は、侍女3人と見送る／兵士は簀子に3人、庭に7人、門上に2人、門下に3人、塀上に1人 *⑧と同一下絵</p>	<p>×左上に昇天／姫は輿</p>	<p>×</p>	<p>兵士は、鎧兜3・鎧兜長刀2・烏帽子鎧1・露頭鎧弓胡縁4・露頭鎧長刀1・露頭鎧4。合掌3。</p>
<p>⑧酒井好古堂掲示本</p>	<p>姫は輿(輦)に乗って振り返らず(顔不描)、左上に昇天する。雲に乗る迎え15人は、翳・縦笛・旗・笙2・太鼓・横笛を持ち、輿は男4人で担ぐ／廂に座る翁と頭巾の姫は、侍女3人と見送る／兵士は簀子に2人(右半分の図絵省略) *⑦と同一下絵</p>	<p>×左上に昇天／姫は輿</p>	<p>×</p>	<p>兵士は、露頭鎧弓胡縁1・露頭鎧長刀1、他は不明。</p>
<p>⑨吉田幸一氏本絵巻</p>	<p>乗り物は不描、雲に乗り左上に昇天する6人の最後尾で振り返る立姿が、姫欵／簀子に立つ頭巾の翁は左袖、姫は両袖で顔全体を被い、共に右手を振る／兵士不描</p>	<p>○左上に昇天／車不描</p>	<p>×</p>	
<p>⑩臼杵市教育委員会本</p>	<p>姫は輿(輦)に乗って振り返らず、左上に昇天。迎え5人の4人は輿を担ぎ、最後尾の1人は翳を差し掛ける／簀子に座る翁と頭巾の姫は合掌。侍女2人は、左袖を顔に当てるのと、後ろ姿／兵士不描</p>	<p>×左上に昇天／姫は輿</p>	<p>×</p>	
<p>⑪円福寺本</p>	<p>右上に昇天、輿に乗る姫不描。輿を袖で持つ迎え4人／廂の翁簀子の姫は、右手と左手を顔に当てる。翁の前に手紙と不死の葉の壺。簀子の侍女は見送る／兵士不描</p>	<p>○右上に昇天／姫不描</p>	<p>×</p>	<p>*廂の手紙と不死の葉の壺は、姫昇天を象徴</p>
<p>⑫工藤早弓氏本</p>	<p>車に乗る姫は不描、左に昇天。迎えは童5人／翁姫不描／兵士不描。*⑬と同一下絵</p>	<p>×左に昇天</p>	<p>×</p>	
<p>⑬名古屋大文学本</p>	<p>車に乗る姫は不描、左に昇天。迎えは男5人／翁姫不描／兵士不描。*⑫と同一下絵</p>	<p>×左上に昇天</p>	<p>×</p>	

<p>⑭九曜文庫 二冊本</p>	<p>姫は輿に乗って「振り返り」、右上に昇天。迎え6人は輿を担ぐ4人と、最後尾は天蓋を差し掛け、輿の右は両手を姫に差し出す／廂の端に座る「翁媪は見送り」、侍女は左袖を顔に当てる／兵士は塀上に2人</p>	<p>×右上に昇天／姫は輿</p>	<p>×</p>	<p>兵士は鎧兜2。</p>
<p>⑮クリステイズ本</p>	<p>姫は「車」に乗って振り返らず、右上に昇天。迎え3人／部分図で、翁媪不明／兵士不明</p>	<p>右上に昇天／姫は車</p>	<p>×</p>	
<p>⑯サントリア美術館本</p>	<p>姫は輿に乗って「振り返り」、右上に昇天。輿の前後に迎え2人／廂の翁は右袖を顔に当てる、頭巾の媪は左袖を胸に当てる／兵士不描</p>	<p>○右上に昇天／姫は輿</p>	<p>×</p>	
<p>⑰勝興寺本</p>	<p>姫は輿に乗って「振り返り」、左上に昇天。迎えは10人で、4人は振り返る／頭巾の翁、媪は共に右袖を顔に当てる、侍女は後ろ姿と右袖を顔に当てる／兵士不描 ★最後尾の迎えは、手紙と不死の薬の壺を勅使高野大國に渡そうとする。</p>	<p>○左上に昇天／姫は輿</p>	<p>★手紙と薬を勅使に渡す</p>	
<p>⑱神宮文庫本（見開き図）</p>	<p>姫は「車」に乗って「振り返り」、右上に昇天。「迎え不描」／廂の翁は左袖を顔に当てる、簀子の媪は右袖で顔を被う。廂の侍女は左袖を胸に当てる、簀子の2人は「合掌」、左端は左袖を顔に当てる／兵士10人</p>	<p>○右上に昇天／姫は車</p>	<p>×</p>	<p>兵士は、鎧兜7・葵烏帽子3。</p>
<p>⑲成蹊大学本（見開き図）</p>	<p>姫は輿に乗って「振り返り」、右上に昇天。迎え9人は、輿を持つ天人7人、先頭は翳を持ち、最後尾は翳を差し掛ける／簀子に立つ翁は左手、媪は左袖を顔に当てる。侍女は、後ろ姿と袖を顔に当てる3人／兵士は庭に8人、門上に1人</p>	<p>○右上に昇天／姫は輿</p>	<p>×</p>	<p>兵士は、鎧兜胡縁3・鎧兜2・烏帽子鎧胡縁1・烏帽子鎧1・葵烏帽子鎧胡縁1・侍烏帽子鎧1。</p>

<p>⑳ C B L J Ⅲ本</p>	<p>姫は[車]に乗って振り返らず〔顔上部不描〕、〔左上に昇天〕。迎え7人、右端は羅蓋を差し掛ける／翁姫と侍女不描／兵士は、庭に5人、門上に1人。★雲の下部に立つ迎えは、手紙と不死の薬の壺を勅使高野大国に渡そうとする。</p>	<p>×左上に昇天／姫は車</p>	<p>★手紙と薬を勅使に渡す</p>	<p>兵士は、鎧兜1・葵烏帽子鎧胡縁1・侍烏帽子鎧3。</p>
<p>㉑ 元禄五年 版本</p>	<p>姫は輿に乗って〔振り返り〕、右上に昇天。迎え4人は、食べ物と団扇を持ち、最後尾は翳を差し掛ける／翁は左手、姫は左袖を顔に当てる。侍女は左袖を顔に当てる／簀子に兵士3人</p>	<p>○右上に昇天／姫は輿</p>	<p>×</p>	<p>兵士は、鎧兜弓胡縁1・鎧兜1・葵烏帽子鎧胡縁1。合掌2。</p>
<p>㉒ 東海大学 本（九曜 文庫旧 蔵）</p>	<p>姫は輿に乗って〔振り返り〕、右上に昇天。迎え4人は、食器と団扇を持ち、最後尾は翳を差し掛ける／翁は左手、姫は左袖を顔に当てる。侍女は左袖を顔に当てる／簀子に兵士3人 *②の転写本</p>	<p>○右上に昇天／姫は輿</p>	<p>×</p>	<p>兵士は、鎧兜弓胡縁1・鎧兜1・葵烏帽子鎧胡縁1。合掌2。</p>
<p>㉓ 九州大 本 繪巻</p>	<p>姫は輿に乗って〔振り返り〕、右上に昇天。迎え4人は、食べ物と団扇を持ち、最後尾は翳を差し掛ける、振り返る／翁は左手、姫は左袖を顔に当てる。侍女は左袖を顔に当てる／簀子に兵士3人 *②と同一下絵</p>	<p>○右上に昇天／姫は輿</p>	<p>×</p>	<p>兵士は、鎧兜弓胡縁1・鎧兜1・葵烏帽子鎧胡縁1。合掌2。</p>
<p>㉔ 東北大学 狩野文庫 本</p>	<p>姫は車に乗って〔振り返り〕、〔左上に昇天〕。迎え不描／簀子で翁は仰向けに倒れ、姫は立って左手を差し出す／兵士不描</p>	<p>○左上に昇天／姫は車</p>	<p>×</p>	
<p>㉕ 立教大学 小嶋菜温 子氏甲本</p>	<p>姫は輿に乗って右袖を胸に当て、左の迎えは不死の薬の壺を差し出す。〔左上に昇天〕。迎えは3人／廂に立つ翁は右袖を胸に当て、簀子に立つ姫は右袖を顔に当て、左手を差し出す。侍女は後ろ姿と右袖を顔に当てる／兵士不描</p>	<p>○左上に昇天／姫は輿</p>	<p>×</p>	

②6 立教大学 小嶋菜温 子氏乙本	姫は輿に乗って「振り返り」、左上に昇天。迎への5人の内2人は振り返り、最後尾は翳を差し掛ける／廂の翁姫は右袖を顔に当てる。侍女不描／兵士不描	○左上に 昇天／ 姫は輿	×	
②7 龍谷大学 本	姫は輿に乗って「振り返り」、右上に昇天。迎へは6人、2人は振り返る／頭巾の翁姫は左袖を顔に当てる。侍女3人も左袖を顔に当てる／勅使高野大國は簀子に立ち、昇天を見送る。兵士不描	○右上に 昇天／ 姫は輿	×	

右の概要に基づいて、「月の都への昇天」図（以下、「昇天」図と略称する）の構図を分類・整理してみたい。

まず、かぐや姫が「昇天」する方向を確認すると、「右上への昇天」図13伝本（絵巻4伝本、奈良絵本9伝本）、「左上への昇天」図14伝本（絵巻6伝本、奈良絵本8伝本）であり、拮抗している。「到来」図は、右上からの構図が基本的類型であったのは、相違している。奈良絵本の伝本数に偏りは見られないが、絵巻では、「左上への昇天」図の伝本が、若干多くなっている。

その理由は、絵巻は、既述したように、右から左へと巻物を繙きながら鑑賞、読み進める形式のものであるため、最初にかぐや姫が右上に昇天する様子が描かれるよりも、悲嘆したり、合掌・見送る翁姫が最初に眼に入った方が、読者は絵の世界に関心を抱いて引き込まれ、更に繙いて、左上に昇天する姫の姿を確認して、図絵の全体を理解することになる。そうした絵巻の享受形態が、「左上への昇天」図の伝本が多い要因になっているのであろう。

尚、「到来」図と「昇天」図の両図絵を貼付する伝本は、管見に入った限りでは、皆無であり、何れかの図が選択されたのだが、確認される「到来」図20図「昇天」図27図からは、後者の方が多く、物語展開から考えても、重要度が高いことが勘案されたのであろう。ただ、「到来」図が、「昇天」図と遜色ない伝本数となっているのは、嫁

入り本として作製されることの多かつたことから、依頼者によって、翁嫗の悲嘆する様子が忌避された事情もあるのであろう。

次に、かぐや姫とともに昇天する「迎え」の人数を確認すると（不描の②国学院大小絵巻本、⑱神宮本、⑳東北大本を除く）、絵巻は9人前後（5人1伝本、6人2伝本、9人2伝本、11人1伝本、15人1伝本、19人1伝本）であり、奈良絵本は5人前後（2人1伝本、3人2伝本、4人4伝本、5人4伝本、6人2伝本、7人1伝本、9人1伝本、10人1伝本）となっている。この人数は、「到来」図のそれと、概ね一致している。

次に、手紙と不死の薬の壺が、勅使高野大国に渡される場面を同時に描く「複数場面」の構図6伝本の検討は、後述することにして、先ず、「右上に昇天」する9伝本（翁嫗不明の⑮クリステイズ本を除く）に描かれるかぐや姫と、取り残される翁嫗の様子を分類・整理すると、次の通りである。

【輿】 8伝本

〈姫振り返り、翁嫗悲嘆〉⑯サントリー美本、⑲成蹊大本、⑳元禄版本（兵士合掌2人）、㉑東海大本（兵士合掌2人）、㉒九州大本（兵士合掌2人）、㉓龍谷大本（6伝本）

〈姫振り返り、翁嫗見送り〉⑭九曜本（1伝本）

〈姫不描、翁嫗悲嘆〉⑪円福寺本（1伝本）

【車】 1伝本

〈姫振り返り、翁嫗悲嘆〉⑱神宮本（侍女合掌2人）（1伝本）

「右上に昇天」する図絵で、物語本文に比較的近いのは、「車」に乗る〈姫振り返り、翁嫗悲嘆〉の⑱神宮本のだが、

この図の基本的類型は、6伝本を数える「輿」に乗り、〈姫振り返り、翁謳悲嘆〉であることが判明する。かぐや姫が翁謳を思い遣って振り返ることは、物語本文とは矛盾するものの、翁謳の悲嘆を深化させ、昇天という離別の場に相応しい構図として選び取られたのであろう。

その一方で、〈姫振り返り、翁謳見送り〉の⑭九曜本は、物語本文と相違して、翁謳の悲嘆が描かれず、「見送り」という新たな構図で描かれているのだが、この問題は「左上に昇天」図の項で、改めて論ずることにしたい。

また、〈姫不描、翁謳悲嘆〉の⑪円福寺本は、かぐや姫が描かれていない珍しい伝本なのだが、翁の前の廂に、姫が帝に残した手紙と不死の葉の壺が置かれていて、これが姫の昇天を象徴する媒体になっている。「姫不描」の構図が生じた理由については、「左上に昇天」図の項で、改めて論ずることにしたいと思う。

次に、「左上に昇天」する11伝本に描かれるかぐや姫と、取り残される翁謳の様子を分類・整理すると、次の通りである。

【輿】 6伝本

〈姫振り返り、翁謳悲嘆〉④真田宝物本、②⑥立教大小嶋乙本（2伝本）

〈姫振り返らず、翁謳悲嘆〉②⑤立教大小嶋甲本、（1伝本）

〈姫振り返らず、翁謳見送り〉⑦福岡市美本（兵士合掌3人）、⑧酒井好古堂本（2伝本）

〈姫振り返らず、翁謳合掌〉⑩白杵市教委本（1伝本）

【車】 4伝本

〈姫振り返り、翁謳悲嘆〉②④東北大本（1伝本）

〈姫振り返らず、翁媪合掌〉②国学院大小絵巻本（兵士2人合掌）（1伝本）

〈姫不描、翁媪不描〉⑫工藤本、⑬名古屋大本（2伝本）

【乗り物不描】1伝本

〈姫不明、翁媪悲嘆〉⑨吉田本（1伝本）

右の分類を見て、先ず、注意されるのは、「右上に昇天」図の基本的類型であった〈姫振り返り、翁媪悲嘆〉の構図が、④真田宝物本と⑭東北大本と⑯立教大小嶋乙本の3伝本にしか見られないことである。

「左上に昇天」する図絵で、物語本文に忠実な、「車」に乗り〈姫振り返らず、翁媪悲嘆〉の伝本は皆無なのだが、「右上に昇天」図では、確認できなかった〈姫振り返らず〉の構図が、「輿」で4伝本、「車」で1伝本の合計5伝本で確認される点は、注意されよう。しかも、その中で物語本文と一致する〈翁媪悲嘆〉は、⑮立教大小嶋甲本しかないのに対して、〈翁媪見送り〉は、⑦福岡市美本と⑧酒井好古堂本の2伝本（「右上に昇天」図の⑭九曜本も含めると3伝本）、〈翁媪合掌〉も、⑩臼杵市教委本と⑪国学院大小絵巻本の2伝本が確認されるのである。

何故に、翁媪がかくや姫を〈見送り〉〈合掌〉する構図が、「左上に昇天」図に多いのかを考えると、月の都は、「いとけうらに、老いをせずなむ。思ふこともなくはべる」という、人間世界の現実を反転させた理想郷として設定されており、それと西の方角（図絵では左）に阿弥陀仏の極楽浄土があることが重ねられて、姫の「月の都」への昇天が、浄土への帰還と理解されたためなのではなからうか。

これは、「左上に昇天」する図絵であるからこそ、成立する解釈である以上、「右上に昇天」図9伝本の内で、唯一⑭九曜本だけが〈見送り〉の構図を取っているのは、⑦福岡市美本や⑧酒井好古堂本のような構図の影響下に生じた事例である、と考えられよう。

尚、【乗り物不描】で〈姫不明、翁媪悲嘆〉の⑨吉田本については、「天の羽衣」を着せられ昇天するかくや姫の服装が、雲に乗る迎えと同一に描かれており、加えて、乗り物も不描であるため、姫を特定する手懸かりが得られない。振り返る人物に注目すると、最後尾の人物がかくや姫に相応しいように思われる。とすると、〈姫振り返り、翁媪悲嘆〉の構図に分類できることになろう。

また、〈姫不描、翁媪不描〉の構図の⑫工藤本と⑬名古屋大本は、昇天する「車」に焦点を絞った図絵なのだが、この場面に不可欠なくや姫と翁媪を省略したため、「到来」図にも転用できる曖昧さを包含する結果になっている。⑬名古屋大本の昇天する雲は、左に向かって水平に移動しているのだが、⑫工藤本のは、左下に降下しており、「到来」図に相応しい構図になっている。

次に、かくや姫の「昇天」と併せて、姫の手紙と不死の薬の壺が勅使高野大国に渡される場面を描く、複数場面の図絵6伝本について、分類・整理してみたい。

「右上に昇天」3伝本

【車】

〈姫振り返り、翁媪悲嘆〉③国会図書館、⑥東京大本（2伝本）

〈姫振り返らず、翁媪悲嘆〉①慶応大風本（1伝本）

「左上に昇天」3伝本

【輿】

〈姫振り返り、翁媪悲嘆〉⑰勝興寺本（1伝本）

【車】

〈姫振り返らず、翁媪悲嘆〉⑤泉屋博古本（1伝本）

〈姫振り返らず、翁媪不描〉⑳CBL本（1伝本）

「昇天」する方向は、左右各3伝本と同一であり、乗り物は【車】5伝本【輿】1伝本となっている。また、〈姫振り返り〉と〈姫振り返らず〉も、各3伝本と同一であるが、⑳CBL本の〈翁媪不描〉以外の5伝本は、〈翁媪悲嘆〉で同一となっている。

「中将に、天人とりて伝ふ」様子は、次のように分類・整理できよう。

〈天人と中将は庭に並び立ち、手紙と葉の壺は簀子〉①慶応大屏風本

〈天人は雲の最後尾で、手紙と葉の壺を持って立ち、中将は庭に立つ〉③国会図書本

〈天人は雲の最後尾で、手紙と葉の壺を持って立ち、中将は簀子で受け取る〉⑰勝興寺本

〈天人は雲の下部で、葉の壺と手紙を持って立ち、中将は廂で受け取る〉⑤泉屋博古本

〈天人は雲の下部で、手紙と葉の壺を持って腰を屈め、中将は庭で受け取る〉⑳CBL本

〈天人は簀子で手紙と葉の壺を持って立ち、中将は座って受け取る〉⑥東京大本

右の分類をまとめると、「天人」は右手に手紙、左手に不死の葉の壺を持って（⑤泉屋博古本は逆）、乗る雲の最後尾か下部に立ち、勅使の「中将」は、立って受け取る（簀子1伝本、廂1伝本、庭2伝本）構図が、基本的類型ということになる。これは、「迎え」が「雲に乗りて下り来て、土より五尺ばかり上りたるほどに立ち連ねたり」と叙述され、穢土としての地上世界には降り立たない物語本文に則した図絵となっている。

だが、このことが失念されて、「天人」が簀子に立ち、勅使の「中将」が束帯姿で座って拝受する⑥東京大本の

図絵となり、更に、手紙と不死の薬の壺は、簀子に置かれて授受の構図とならず、庭に並び立つ「天人」と「中将」が、悲嘆する翁嫗を見守る①慶応大屏風本の図絵へと変遷することになったのであろう。

最後に、〈姫振り返らず〉の構図の9伝本中に、かぐや姫の顔を描かない⑤泉屋博古本、⑦福岡市美本、⑧酒井好古堂本、⑩CBL本の4伝本があることについて、考えてみたい。

具体的には、「車」や「輿」の屋根に遮られて、⑤⑦は肩から上が描かれず、⑧は首から上が描かれず、⑩は顔の上半分が描かれていない。その理由を考えると、かぐや姫は、迎えが持参した「不死の薬」を嘗め、「天の羽衣」を身に纏うことで、理想郷である「月の都」の人として再生しただけでなく、「王とおほしき人」（月の都の王の勅使であるう）が、「かぐや姫は罪をつくりたまへりければ、かく賤しきおのれがもとに、しばしおはしつるなり」と、尊敬語を使用して翁に語りかけており、「王女」（内親王）と考えられよう。

かぐや姫は、「昇天」時、「月の都」での本来の身分に回帰していたのであり、その高貴性を象徴する表現として、絵巻において、天皇の顔は不描が原則であり、それが描かれるのは、「天皇が吹抜屋台の内に位置する場合と、天皇がその絵巻においてより高位にあたる神仏や尊属と対面する場合」⑥（180頁）に限られていた「默契」を、姫に適用したためなのではなからうか。

更に言えば、⑪円福寺本のように、勅使高野大国を描かずに、簀子に手紙と不死の薬の壺だけを置いて、かぐや姫の存在を暗示し、姫の乗る輿だけを描いて、その姿を描かないことで、高貴性を表現する方法が取られた可能性は、考えられてよいように思われる。

註

- (1) 拙稿「同一下絵による『竹取物語絵巻』図絵の検討―逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本・鉄心齋文庫本」(『花園大学日本文学論究』第11号 二〇一八年一月)。
- (2) 『河合正朝絵画史論集』下巻(中央公論美術出版 二〇二〇年一月)。初出は二〇〇六年。
- (3) 「月の都の迎え」が飛天として描かれる他の伝本としては、『思文閣古書資料目録』第三八号(二〇一四年七月) 53頁掲載の「飛天、不死の葉の壺と手紙を、かぐや姫から受け取る」図と思しき図絵があるが、前後の図絵及び物語本文との関連は不明であり、現在の御所蔵者の報告を待ちたいと思う。
- (4) 徳田進氏『竹取物語絵巻の系譜的研究』(桜楓社 一九七八年一月) 図62(91頁)。
- (5) 日本古典集成本は「かぐや姫は、この天人の王も敬語を用いるような月世界でも最高の身分の存在だった」(78頁頭注三)、新編日本古典文学全集本は「天人の王が、かぐや姫に敬語を用いているのに注意。姫は月世界の尊い人だったのである」(72頁頭注一)、新日本古典文学大系本は「王が敬語を使うほど、かぐや姫は月の都では高貴な身分である」(70頁脚注八)と付注しており、「王女」と認定して差し支えあるまい。
- (6) 山本陽子氏『絵巻における神と天皇の表現』(中央公論美術出版 二〇〇六年七月)

付記 本稿を成すに際して、奈良絵本・絵巻の伝本調査に対し、御所蔵の機関や御所蔵者の御芳情を戴いたことに、深甚の謝意を申し上げます。

本来であれば、適宜図絵を揭示すべきところ、原稿準備遅延のために、転載の許可をいただく時間的余裕が取れず、省略せざるを得なかった。理解し辛くなったことを、お詫び申し上げます。

伝本の情報については、付載の「竹取物語 奈良絵本・絵巻の伝本(第二稿)」を参照いただけたら、幸いである。

付 『竹取物語』 奈良絵本・絵巻の伝本（第二稿）

本稿は、旧稿『竹取物語』奈良絵本・絵巻の伝本（『花園大学文学部研究紀要』第四八号 二〇一六年三月）の記述について、この五年余りの間に気付いた錯誤を訂正するとともに、新たに確認した伝本を追加し、関連する論文を増補した補正版である。

【凡例】

- ・『竹取物語』の奈良絵本・絵巻の伝本を網羅的に揭示し、その所蔵者と情報が記載されている文献名、マイクロフィルの所蔵機関、絵の写真が掲載されている図録等、研究のための手懸かりを提供することを意図して編集した。また、従来の研究で言及のある伝本や調査し得た伝本については、参考となる情報も付記した。
- ・中田剛直氏『竹取物語の研究 校異篇解説篇』（塙書房 一九六五年六月）の時点で、既に旧蔵本と明記されている等、所蔵者が変更されていることが判明している伝本であっても、現在の所蔵者が確認されていない場合は、旧蔵者名で揭示した。そのため、同一伝本が所蔵者名を変えて複数箇所て揭示されている可能性があることをお断りしておく。
- 尚、『国書絵目録』第五卷（岩波書店 一九六七年一月）掲載の『竹取物語絵巻』「京大（一軸）」は、京都大学博物館古文書室蔵・新写本一巻のことと思われるが、『竹取物語』の絵巻ではないことが判明したので削除した。
- ・図絵が剥離され白紙の伝本も、奈良絵本・絵巻の展開を考える資料になるので、巻末に【図絵剥離伝本】として揭示し、調査し得た伝本については、大きさを注記した。石川透氏の御教示によると、剥離痕が確認されない白

紙を含む伝本でも、表紙が付いていれば絵は貼られていた（剥離された）と考えられるとのことである。

・『竹取物語』奈良絵本・絵巻の研究状況については、拙稿「竹取物語」の絵画の世界」（『知の遺産 竹取物語の新世界』武蔵野書院 二〇一五年一〇月）を参照していただけたら、幸いである。

・所蔵者の変更や記載情報の錯誤等、お気付きの点があれば、是非御教示をお願いしたい。更なる改訂と増補を重ねることで、『竹取物語』奈良絵本・絵巻の研究が充実・深化する一助となることを願うからである。

【絵巻】

①逸翁美術館本 三巻 全15図（各巻5図）

・国文学研究資料館マイクロフィルム

・『逸翁美術館蔵国文学関係資料解題』（明治書院 平成元年三月）*第8図「御行暴風に遭遇」掲載

・『絵巻 大江山酒吞童子・芦引絵の世界』（思文閣出版 二〇一一年九月）*第14図「月の都の人々迎えに到来」掲載

・拙稿「『竹取物語』絵の配列と多義性―逸翁美術館本と諏訪市博物館本の比較を通して」（『花園大学日本文学論究』第四号 二〇一一年二月）

・拙稿「同一下絵による『竹取物語絵巻』図絵の検討―逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本・鉄心斎文庫本」（『花園大学日本文学論究』第十一号 二〇一八年一二月）

・拙稿「同一下絵による『竹取物語絵巻』四伝本本文の検討―逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並

弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本）（『花園大学日本文学論究』第十二号 二〇一九年二月）

②慶応大学斯道文庫本 三卷 全18図（上6・中7・下5図） *長大図上1・下2

・宮腰直人・目黒将史氏「資料紹介―立教大学蔵『竹取物語』貼交屏風」（『立教大学大学院日本文学論叢』第六号 二〇〇六年八月）注8

③九州大学本 三卷 全6図（各巻2図）

・九州大学図書館ホームページ

・国文学研究資料館マイクログリム

④共立女子大学本 二卷 全17図（上9・下8図）

・山本聡美氏「共立女子大学図書館所蔵絵巻の基礎的研究―『竹取物語絵巻』」「利仁草紙」「異疾之絵巻（病草紙模本）」「鳥羽絵巻物（鳥獸戯画模本）」（『共立女子大学・共立女子短期大学総合文化研究所紀要』第二十四号 二〇一八年二月） *本文翻刻

⑤宮内庁書陵部本 二卷 全16図（各巻8図） 元禄前後頃 狩野派

・宮内庁書陵部ホームページ

・『古典研究会叢書 竹取物語』（汲古書院 一九七四年一月） *全図掲載（本文元来なし）・モノクロ版

・樺島忠夫氏『本物の絵巻を現代語で読む 竹取物語絵巻』（勉誠出版 二〇〇三年一月）

⑥くもん子ども研究所本 二卷

・宮腰直人・目黒将史氏「資料紹介―立教大学蔵『竹取物語』貼交屏風」（『立教大学大学院日本文学論叢』第六号 二〇〇六年八月）注8

『竹取物語』奈良絵本・絵巻の図絵概説

⑦九曜文庫本 三卷 全18図(上6・中7・下5図) 土佐派 寛文延宝頃

・『九曜文庫蔵奈良絵本・絵巻集成 竹取物語絵巻』(勉誠出版 二〇〇七年七月) *全図掲載・カラー版、本文影印、翻刻

⑧クリステイズ本

・渡辺雅子氏「CBL本『竹取物語絵巻』二巻」(『チェスター・ピーティ・ライブラリイ所蔵 竹取物語絵巻』(勉誠出版 二〇〇八年七月) *「かぐや姫の昇天」図・場面不明図(146頁)・モノクロ版

⑨国学院大学武田祐吉旧蔵本 三卷 全18図(上6・中7・下5図) 寛文・延宝頃

・国学院大学図書館ホームページ

・「国学院大学図書館蔵『竹取物語絵巻』構図対照表」(『物語絵巻の本文とその享受に関する総合的研究』(平成二〇年度) (二〇〇九年三月) *全図掲載・モノクロ版

・針本正行氏「竹取物語絵巻の本文」(『国学院大学大学院紀要文学研究科』第三十八輯 二〇〇七年三月)

*本文翻刻

⑩国学院大学ハイド旧蔵本 三卷 全18図(上6・中7・下5図) 寛文・延宝頃

・「国学院大学図書館蔵『竹取物語絵巻』構図対照表」(『物語絵巻の本文とその享受に関する総合的研究』(平成二〇年度) (二〇〇九年三月) *全図掲載・モノクロ版

・三橋健氏『かぐや姫の罪』(新人物文庫 中経出版 二〇一三年八月) *全図掲載・カラー版

・針本正行・岩原真代・太田敦子氏「國學院大學図書館蔵『竹取物語絵巻』(ハイド旧蔵) 書誌・解題・翻刻」

『物語絵巻の本文とその享受に関する総合的研究』(平成一九年度) (二〇〇八年三月) *本文翻刻

⑪ 国学院大学小型本 三卷 全16図（上6・中5・下5図） 元禄頃

・「国学院大学図書館蔵『竹取物語絵巻』構図対照表」（『物語絵巻の本文とその享受に関する総合的研究』（平成二〇年度）二〇〇九年三月） * 全図掲載・モノクロ版

・針本正行・岩原真代・太田敦子・星合麻以子氏「國學院大學図書館蔵『竹取物語絵巻』（小型本）書誌・解題・翻刻」（『物語絵巻の本文とその享受に関する総合的研究』（平成二〇年度）（二〇〇九年三月）

* 本文翻刻

⑫ 国会図書館本 三卷 全18図（各巻6図）

・国会図書館ホームページ

・樺島忠夫氏『本物の絵巻を現代語で読む 竹取物語絵巻』（勉誠出版 二〇〇三年一月）

・田近洵一氏監修『絵で読む日本の古典 竹取物語』（ポプラ社 二〇一二年三月）

⑬ 真田宝物館本 三卷 全21図（各巻7図）

⑭ 諏訪市博物館本 三卷 江戸中期写 全15図（各巻5図）

・『竹取物語絵巻』（諏訪市博物館 二〇〇三年一月、一四年三月改版） * 全図掲載・カラー版、本文翻刻

・拙稿「『竹取物語』絵の配列と多義性―逸翁美術館本と諏訪市博物館本の比較を通して」（『花園大学日本文学論究』第四号 二〇一一年十二月）

・拙稿「同一下絵による『竹取物語絵巻』図絵の検討―逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本・鉄心斎文庫本」（『花園大学日本文学論究』第十一号 二〇一八年一二月）

『竹取物語』奈良絵本・絵巻の図絵概説

- ・拙稿「同一下絵による『竹取物語絵巻』四伝本文の検討―逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本」〔花園大学日本文学論究〕第十二号 二〇一九年二月
 - ⑮聖徳大学本 三巻 全17図（上5・中7・下5図）
 - ・特別展覧会「近世の絵巻」展（二〇〇九年四月）パンフレット *「月の都の人々の到来図」掲載
 - ・辻英子氏「オクスフォード大学ボドリアン図書館本および聖徳大学所蔵日本絵巻の比較研究を中心に」二〇一〇年度「研究実績報告書」（科研費）
 - ・拙稿「同一下絵による『竹取物語絵巻』図絵の検討―逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本・鉄心齋文庫本」〔花園大学日本文学論究〕第十一号 二〇一八年一二月）
 - ・拙稿「同一下絵による『竹取物語絵巻』四伝本文の検討―逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本」〔花園大学日本文学論究〕第十二号 二〇一九年二月）
 - ⑯泉屋博古館本 三巻 全18図（各巻6図）
 - ・『泉屋博古 日本絵画』（泉屋博古館 二〇一〇年十一月）*全図掲載、本文影印 モノクロ版
 - ⑰反町茂雄氏旧蔵本 三巻 17図（上6・中6・下5図） 元禄頃 住吉派風
 - ・中田剛直氏『竹取物語の研究 校異篇解説篇』（搞書房 一九六五年六月）二五五頁
 - ⑱チェスター・ビーター・ライブラリイJ 1125本 二巻 全10図（上7・下3図） 元和寛永頃
 - ・『チェスター・ビーター・ライブラリイ所蔵 竹取物語絵巻』（勉誠出版 二〇〇八年七月）
- *全図掲載・カラー版、本文翻刻

・渡辺雅子氏「CBL本『竹取物語絵巻』二巻」（『チェスター・ビーター・ライブラリー所蔵 竹取物語絵巻』（勉誠出版 二〇〇八年七月））

・『チェスター・ビーター・ライブラリー絵巻絵本解題目録 解題篇』（勉誠出版 二〇〇二年三月）

⑱ チェスター・ビーター・ライブラリーJ 1188本 三巻 全18図（上6・中7・下5図） 近世前期写

・反町茂雄氏「チェスター・ビーター・ライブラリー蔵 日本絵入本及絵本目録」（弘文荘 一九七九年八月）

* 第1図「かぐや姫の養育」掲載

・『チェスター・ビーター・ライブラリー 絵巻絵本解題目録 図録編』（勉誠出版 二〇〇二年三月）

* 第14図「帝かぐや姫と対面」・第18図「勅使帝に不死薬と手紙を献上」掲載

・『チェスター・ビーター・ライブラリー 絵巻絵本解題目録 解題篇』（勉誠出版 二〇〇二年三月）

・針本正行・太田敦子・春日美穂氏「チェスター・ビーター・ライブラリー（CBL）蔵『竹取物語絵巻』書誌・解題・翻刻」（『物語絵巻の本文とその享受に関する総合的研究』（平成二二年度）（二〇一〇年三月））

* 本文翻刻

⑳ チェスター・ビーター・ライブラリーJ 1163本 三巻 全3図（各巻1図） 近世後期写 住吉派板谷広長画

・『日本の物語絵 アイランド・チェスター・ビーター・コレクション』（サントリー美術館 一九八八年一

〇月）* 第2図「庫持皇子蓬萊の玉の枝を提出」、第3図「麻呂足の転落」掲載

・『チェスター・ビーター・ライブラリー絵巻絵本解題目録 図録篇』（勉誠出版 二〇〇二年三月）

* 第1図「貴公子の求婚」、第3図「麻呂足の転落」掲載

・『チェスター・ビーター・ライブラリー 絵巻絵本解題目録 解題篇』（勉誠出版 二〇〇二年三月）

『竹取物語』奈良絵本・絵巻の図絵概説

②1 鉄心齋文庫本

・田辺聖子氏『現代語訳日本の古典4 竹取物語・伊勢物語』（学習研究社 一九八〇年一月）

* 8 図（部分図を含む）掲載 * 二〇一六年現在、所在不明

・拙稿「同一下絵による『竹取物語絵巻』図絵の検討―逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本・鉄心齋文庫本」（『花園大学日本文学論究』第十一号 二〇一八年一月）

②2 東京大学本 三巻 全18図（各巻6図）

・上原作和・安藤徹・外山敦子氏『かぐや姫と絵巻の世界』（武威野書院 二〇一二年一〇月）* 全図掲載（第

7 図は部分図）・カラー版、本文翻刻

・国文学研究資料館マイクロフィルム

* 石川透氏『奈良絵本・絵巻の生成』（三弥井書店 二〇〇三年八月）は、琦山老候が慶安二年に住吉如慶・

具慶父子に「図絵」を、慶安三年十二月に曼殊院宮に「詞書」を書かせたという奥書は、偽跋であると指

摘する（229頁）。

②3 徳川宗敬氏本

・徳田進氏「竹取物語絵巻の系譜的研究補遺」（『群馬女子短期大学紀要』第九号 一九八二年一月）

②4 日本大学文学部本 一巻 全3図（本文なし） * 寛政十二年三月、井奚得写

・平成二九（二〇一七）年度「王朝の物語展」冊子 * 「貴公子の求婚図」「蓬萊の玉の枝提出図」「麻呂足の

転落図」掲載・カラー版

* チェスター・ビーター・ライブラリーに23本（全3図、住吉派板谷広長画）の転写本

②5 福岡市美術館本 二卷 全18図（上8、下10図／元来は上6、中7、下5図）（黒田資料）

* 元来の三巻本を改装。現存上巻は、第1～33紙が元来の上巻、34～48紙が元来の下巻の前半。現存下巻は、第1～16紙が元来の下巻の後半、17～48紙が元来の中巻。

* 現存下巻の第12～14紙は、13・14・12紙の乱丁、第19～21紙は、21・20・19紙の乱丁、第46～48紙は、48・47・46紙の乱丁。

②6 穂久邇文庫本 三卷

・ 宮腰直人・目黒将史氏「資料紹介―立教大学蔵『竹取物語』貼交屏風」〔『立教大学大学院日本文学論叢』第
六号 二〇〇六年八月〕注8

②7 吉田幸一氏本 二卷

・ 宮腰直人・目黒将史氏「資料紹介―立教大学蔵『竹取物語』貼交屏風」〔『立教大学大学院日本文学論叢』第
六号 二〇〇六年八月〕注8

②8 吉田幸一氏本 三卷 18図（上7、中5、下6図）

・ 『図説日本の古典5 竹取物語・伊勢物語』（集英社 一九七八年七月）* 17図掲載

・ 徳田進氏『竹取物語絵巻の系譜的研究』（桜楓社 一九七八年二月）* 「中臣房子翁邸訪問図」（図5）

②9 立教大学本 三卷 全18図（各巻6図）

・ 立教大学図書館ホームページ
・ 宮腰直人・目黒将史・青木慎一氏「立教大学蔵『竹取物語絵巻』解題と翻刻」〔『立教大学大学院日本文学論』

『竹取物語』奈良絵本・絵巻の図絵概説

叢」第七号 二〇〇七年八月）*全図掲載、本文翻刻

・山本千尋氏「立教大学蔵『竹取物語絵巻』研究―描かれな月と、かぐや姫の役割に注目して」（『文化学研究』第二十六号 二〇一七年六月）

③〇立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本 三巻 全15図（各巻5図）

・立教大学図書館ホームページ

・小嶋菜温子氏「竹取物語絵」にみる異界と現世―CBL本・立教本、「不死薬の献上」図をめぐる（高橋亨氏編『王朝文学と物語絵』 竹林舎 二〇一〇年五月）*「月の都の人々到来図」掲載

・拙稿「同一下絵による『竹取物語絵巻』 図絵の検討―逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本・鉄心斎文庫本」（『花園大学日本文学論究』第十一号 二〇一八年 一二月）

・拙稿「同一下絵による『竹取物語絵巻』 四伝本本文の検討―逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本」（『花園大学日本文学論究』第十二号 二〇一九年 一二月）

③1早稲田大学本問文庫本 一巻 全3図（本文なし）*文化十四年七月、本問與一が井奚得本（②4日本大学文理学部本、寛政十二年書写）を転写

・早稲田大学ホームページ Academics・古典籍総合データベース

・徳田進氏「竹取物語絵巻の系譜的研究」（桜楓社 一九七八年 一二月）*第1図「貴公子の求婚」（口絵・図版53）第3図「麻呂足の転落」（図版51）掲載

*磯部祥子氏は『チェスター・ビーター・ライブラリー 絵巻絵本解題目録』（勉誠出版 二〇〇二年三月）

で、「CBLJ116本」の「模本」(32頁)であると指摘する。

③個人蔵絵巻本 三巻

・酒井好古堂ホームページ「二〇一五奈良(絵巻・絵本) たけとり(竹取の翁) かぐや姫 酒井雁高」

*「姫の養育図」「かぐや姫の昇天図」(部分図) 掲載

【奈良絵本】

①白杵市立図書館本 三冊 全15図(各冊5図)

・国文学研究資料館マイクロフィルム

*上巻第3図に連続して、構図の角度が異なる「仏の石の鉢提出」図が配されているのは、剥離した中巻第9図を撮影時に並置したもの。この結果、本文の一部が脱落している。

*下巻第5図は、第4図「かぐや姫の昇天」と見開き図になっているが、下巻第2図「帝かぐや姫を実見」の右半分の図絵(従者と牛車が門外に描かれる)である。当該貼付面が見開きの2面確保されておらず、左面のみであったため、帝とかぐや姫が描かれている左半分の図絵を貼付し、残った右半分の図絵を、見開き2面が白紙となっていたここ(本来「昇天」図は見開き図の予定であった)に貼付したものと思われる。

②円福寺本 一冊 全15図(各冊5図) *真言宗飯沼山・千葉県銚子市

③大阪大学本 一冊(中巻) 6図 *二〇二二年一月現在、所在不明

・中田剛直氏『竹取物語の研究 校異篇解説篇』(塙書房 一九六五年六月) 255頁

④大島雅太郎氏旧蔵本 一冊 全15図 *淡彩

『竹取物語』奈良絵本・絵巻の図絵概説

- ・中田剛直氏『竹取物語の研究 校異篇解説篇』（塙書房 一九六五年六月）253頁
- ⑤ オクスフォード大学ボドリアン図書館本（横型大本） 三冊 全19図（上7・中6・下6図）
 - ・「オクスフォード大学ボドリアン図書館附属日本研究図書館所蔵の奈良絵本：絵巻コレクション」（奈良絵本・絵巻国際会議ダブリン大会 二〇〇八年三月）
- ⑥ 北島氏本（新井信之氏蔵） 三冊 全15図（各帖5図）
 - ・中田剛直氏『竹取物語の研究 校異篇解説篇』（塙書房 一九六五年六月）200頁
- ⑦ 九州大学支子文庫本 二冊 全13図（上7・下6図）
 - ・国文学研究資料館マイクロフィルム
 - * 上巻本文9コマ目の見開き一丁分が撮影漏れ。
- ⑧ 工藤早弓氏本（井田等氏旧蔵本） 三冊 全15図（各冊5図）
 - ・工藤早弓氏『奈良絵本下』（紫紅社 二〇〇六年一〇月）* 全図掲載・カラー版、本文不掲載
- ⑨ 公文教育研究会本 三冊 全19図（上6・中7・下6図）
 - ・公文教育研究会「子ども文化資料」閲覧データベース
- ⑩ 九曜文庫本 二冊 全12図
 - ・『琳琅満目』第一四〇号（二〇一五年二月） * 「五人の求婚者図」「房守御主人邸到着図」「かぐや姫の昇天図」掲載
- ⑪ ケンブリッジ大学中央図書館本
 - ・斉藤みか氏『『竹取物語』から「かぐや姫」へ―物語の誕生と継承』（東京堂出版 二〇二〇年十一月月）399頁

- ⑫ 実践女子大学常磐松文庫本（九曜文庫旧蔵本・月明荘旧蔵本）三冊 全14図（上5・中5・下4図）延宝頃
- ・ 実践女子大学 学術機関リポジトリ・特殊コレクション・和書
 - ・ 『竹取物語』（奈良絵本絵巻集1 早稲田大学出版部 一九八七年二月）*全図掲載・モノクロ版、本文影印
- ⑬ 思文閣古書資料目録本 二冊（横型大本）寛永頃 全19図（上11・下8図）
- ・ 『思文閣古書資料目録 善本特集』第二百三十八号（二〇一四年七月）
 - * 「貴公子翁邸に集合図」「石作皇子仏の御石の鉢提出図」「麻呂足かぐや姫からの手紙を受け取る図」「帝かぐや姫を實見図」「天女（飛天）かぐや姫から壺と手紙を預かる図」掲載
- ⑭ 勝興寺本 三冊 全12図（各冊4図5面）
- ・ 雲龍山勝興寺ホームページ・文化財デジタルアーカイブ・宝物
- ⑮ 神宮文庫本 三冊 全19図（上7・中7・下5図）
- ・ 国文学研究資料館マイクログフィルム
 - * 神宮司庁編『神宮文庫所蔵和書総目録』（戎光祥出版 二〇〇五年三月）不掲載（非閲覧書籍）
- ⑯ 相模女子大学本 三冊（横本）全15図（各冊5図）
- ・ 『さがみ』第八十二号（相模女子大学附属図書館 二〇〇九年一月）*「御行海に漕ぎ出す図」掲載
- ⑰ サントリー美術館本
- ・ 徳田進氏「竹取物語絵巻の系譜的研究補遺」（『群馬女子短期大学紀要』第九号 一九八二年一月）
 - * 「かぐや姫の昇天図」掲載

- ⑱ スペンサーコレクション本（ニューヨーク・パブリックライブラリー）三冊（大型本）*元禄頃
- ・反町茂雄氏『スペンサーコレクション』日本絵入本及絵本目録（弘文荘 一九七八年八月増訂再版）
- ⑲ スペンサーコレクション本（ニューヨーク・パブリックライブラリー）三冊（中型本）*元禄頃
- ・反町茂雄氏『スペンサーコレクション』日本絵入本及絵本目録（弘文荘 一九七八年八月増訂再版）
 - ・小嶋菜温子氏「絵巻から読む『竹取物語』」（『チェスター・ビーター・ライブラリー』所蔵 竹取物語絵巻）（勉誠出版 二〇〇八年七月）*「帝かぐや姫と対面図」掲載
- ⑳ 成蹊大学図書館本（宮本長興氏旧蔵本）全18図（上6・中7・下5図）
- ・成蹊大学図書館ホームページ
 - ・国文学研究資料館マイクログフィルム
- ㉑ 曽根誠一本 二冊（下冊欠、横型大本）13図（上6・中7図）
- ㉒ 高安六郎氏本 一冊（合綴本、下巻を欠く）*9図
- ・中田剛直氏『竹取物語の研究 校異篇解説篇』（塙書房 一九六五年六月）255頁
- ㉓ 中京大学本 一冊（合綴本）全18図（上6・中7・下5図）
- ・国文学研究資料館マイクログフィルム
- ㉔ チェスター・ビーター・ライブラリーJ 1001本 二冊 全19図（上11・下8図）近世前期写（寛文延宝頃か）
- ・反町茂雄氏『チェスター・ビーター・ライブラリー蔵 日本絵入本及絵本目録』（弘文荘 一九七九年八月）
 - *第1図「翁かぐや姫を連れ帰る」掲載
- ・『チェスター・ビーター・ライブラリー絵巻絵本解題目録 図録篇』（勉誠出版 二〇〇二年三月）

* 第15図「帝かぐや姫と対面」・第18図「かぐや姫の昇天」掲載

・『チェスター・ビーター・ライブラリー絵巻絵本解題目録 解題篇』（勉誠出版 二〇〇二年三月）

②5 天理大学附属天理図書館本 三冊 *平成二四年三月現在、保護のため閲覧停止

②6 東海大学本（鉄心斎文庫旧蔵、九曜文庫旧蔵本） 二冊 全12図（各冊6図） *元禄五年絵入版本の転写本

・『竹取物語』（奈良絵本絵巻集1 早稲田大学出版部 一九八七年二月） *全図掲載・本文影印

②7 東北大学狩野文庫本 三冊 全15図（各冊5図）

・東北大学狩野文庫マイクロフィルム（下巻第11丁表の後に見開き1丁分の脱落あり、下冊第3図脱落）

* 中巻に錯簡があり、絵の順序は第7図・第6図・第9図・第10図・第8図が原態

・拙稿「東北大学附属図書館蔵狩野文庫本の奈良絵本『竹とり』について―中巻の錯誤等と図絵の解説」（『花園大学日本文学論究』第九号 二〇一六年十二月）

園大学日本文学論究』第九号 二〇一六年十二月）

②8 戸川浜男氏旧蔵本 三冊 全15図（各冊5図）

・中田剛直氏『竹取物語の研究 校異篇解説篇』（塙書房 一九六五年六月） 254頁

②9 名古屋大学森本文庫本 一冊 全15図（各冊5図） 江戸後期写（奈良絵本の転写本、淡彩）

・二〇〇八年名古屋大学附属図書館源氏物語千年記念事業「源氏物語の書物と絵画」展示解説 6頁

* 「月の都の人々到来図」掲載

③0 花園大学本 三冊 全14図（上5・中5・下4図） 寛文・延宝頃

・花園大学図書館ホームページ

③1 藤井隆氏本 一冊（上・下冊合綴、中巻欠、横長本） 享保頃 全10図（上下各5図、中巻欠）

『竹取物語』奈良絵本・絵巻の図絵概説

・藤井隆氏「奈良絵本の種種相―架蔵本を通して」（石川透編『広がる奈良絵本・絵巻』三弥井書店二〇〇八年一月）*下巻第3図「翁と兵士がかぐや姫を守護」、第4図「月の都から飛ぶ車到来」掲載

③2 フェリス女学院大学本 三冊 全24図（上11・中7・下6図）

・フェリス女学院大学図書館ホームページ *全24図掲載、本文不掲載

・三田村雅子・新生優希氏「新出資料フェリス女学院大学本「竹取物語」紹介」（フェリス女学院大学文学部紀要）第四十一号 二〇〇六年三月）*全図掲載 モノクロ版

*中巻12丁の後に2丁分の本文欠脱あり（13丁表の白紙は、絵の欠落歟）

③3 ホノルル美術館本

・斉藤みか氏『竹取物語』から「かぐや姫」へ―物語の誕生と継承』（東京堂出版 二〇二〇年一月月）400頁

③4 めぐる歴史資料館本 三冊 全17図（上6・中5・下6図）*上冊第4図切取欠脱

・めぐる歴史資料館・文化財だより『つどい』第十六号（二〇二一年三月）

*「かぐや姫の養育図」、「月の都の迎え到来図」掲載、カラー版

③5 メトロポリタン美術館本 三冊 全21図（各冊7図）

・メトロポリタン美術館ホームページ *20図掲載（下巻第1図不掲載）

*下巻第1図は、渡辺雅子氏「CBL本『竹取物語絵巻』二巻」（『チェスター・ビーティ―ライブラリー所蔵 竹取物語 絵巻』（勉誠出版 二〇〇八年七月）145頁に掲載

*上・中巻の錯簡は、上巻第14丁の後に、中巻第2〜7丁が混入し、中巻第10丁の後に、上巻第20〜23が混入して生じた。そのため、上・中巻の図絵の順序に混乱がある。

・渡辺雅子氏「『竹取物語』 絵本―メトロポリタン美術館本を中心にして」(『中古文学』第八十六号 二〇〇一年二月) *全図掲載(図絵の錯簡を、「上1〜4・中2〜3・上8図/上5〜7・中1・中4〜6図」と補正する)

・小嶋菜温子氏「絵巻から読む『竹取物語』」(『チエスター・ビーター・ライブラリイ所蔵 竹取物語絵巻』(勉誠出版 二〇〇八年七月)) *「帝かぐや姫と対面図」掲載

③6 立教大学小嶋菜温子氏旧蔵甲本 三冊 全15図(各冊5図)

・立教大学図書館ホームページ

・小嶋菜温子氏「竹取物語絵」にみる異界と現世―CBL本・立教本、「不死薬の献上」図をめぐって」(高橋亨氏編『王朝文学と物語絵』竹林舎 二〇一〇年五月) *「かぐや姫の昇天図」、「富士山と雲に乗る天女

図」掲載

③7 立教大学小嶋菜温子氏旧蔵乙本 二冊(中巻欠) 7図(上3・下4図存) *上2・下1図剝離

・立教大学図書館ホームページ

・小嶋菜温子氏「竹取物語絵」にみる異界と現世―CBL本・立教本、「不死薬の献上」図をめぐって」(高橋亨氏編『王朝文学と物語絵』竹林舎 二〇一〇年五月) *「かぐや姫の昇天」掲載

③8 立教大学小嶋菜温子氏旧蔵丙本 二冊 全11図(上5・下6図)

・立教大学図書館ホームページ

・小嶋菜温子氏「竹取物語絵」にみる異界と現世―CBL本・立教本、「不死薬の献上」図をめぐって」(高橋亨氏編『王朝文学と物語絵』竹林舎 二〇一〇年五月) *「月の都の人々到来図」掲載

『竹取物語』奈良絵本・絵巻の図絵概説

③9 龍谷大学中川文庫本（甲本）二冊（下巻欠、横本）全11図（上6・中5図）十七世紀後半

・龍谷大学図書館貴重資料画像データベース

・『奈良絵本上』（龍谷大学善本叢書 思文閣出版 二〇〇二年三月）*全図掲載、モノクロ版 本文影印・

翻刻

・糸井通浩氏『かぐや姫と菅原道真―私の「竹取物語」論』（和泉書院 二〇一九年六月）

*全図掲載、カラー版

④0 龍谷大学本 三冊 全12図（各冊4図）土佐派 寛文延宝頃

・龍谷大学図書館貴重資料画像データベース

・『奈良絵本上』（龍谷大学善本叢書 思文閣出版 二〇〇二年三月）*全図掲載、モノクロ版 本文影印・

翻刻

・糸井通浩氏『かぐや姫と菅原道真―私の「竹取物語」論』（和泉書院 二〇一九年六月）

*全図掲載、カラー版

【絵入版本】

①元禄五年版本 二冊 全12図（各冊6図）

*第3～6図は左右頁の錯誤で、4・3・6・5図の順序

・国文学研究資料館マイクロフィルム

・針本正行・岩原真代・太田敦子・星合豆麻以子氏「国学院大学図書館蔵『竹取物語絵巻』（三本）構図対照」（『物

語絵巻の本文とその享受に関する総合的研究』(平成二〇年度) 二〇〇九年三月) *全図掲載

・大井田晴彦氏『竹取物語 現代語訳対照・索引付』(笠間書院 二〇一二年一月) *第1頁・2・4頁・8・10頁掲載

・拙稿「元禄五年絵入版本『竹取物語』第一図「かぐや姫の養育」を読む」(『花園大学文学部研究紀要』第四十四号 二〇一二年三月)

【画帖】

①チエスター・ビーティー・ライブラリーJ 11193本 一帖(絵巻を改装) 全30図(本来15図欸) 江戸前期写

・『チエスター・ビーティー・ライブラリー絵巻絵本解題目録 図録篇』(勉誠出版 二〇〇二年三月)

*第29・30図「宮中で伺候する貴族と富士山の方に飛び去る天人達」(1枚の絵を切断) 掲載

・『チエスター・ビーティー・ライブラリー絵巻絵本解題目録 解題篇』(勉誠出版 二〇〇二年三月)

②小学館本 一帖 全18図

・徳田進氏『竹取物語絵巻の系譜的研究』(桜楓社 一九七八年十二月) *9図掲載(口絵2図・図版57頁)

62・64)

③曾根誠一本 一折 全7図 江戸後期写

・『物語画』(俊蔭巻と合綴、絵は住吉内記、詞は山内豊城)

【屏風】

①慶應大学蔵竹取物語屏風 全20図(右隻10・左隻10図) * 絵巻の絵を貼付

・『慶應義塾の王朝物語 源氏物語を中心として』(慶應義塾図書館 二〇一四年一〇月)

* 第1図「かぐや姫の養育」、第19図「かぐや姫の昇天」掲載

・石川透氏「絵本・絵巻に見る古典知」(『もう一つの古典知』アジア遊学155 勉誠出版 二〇一二年七月)

* 第7図「庫持皇子の出家」掲載

②立教大学蔵貼交屏風 10図(欠脱あり) * 奈良絵本の絵を貼付

・立教大学図書館ホームページ

・宮腰直人・目黒将史氏「資料紹介―立教大学蔵『竹取物語』貼交屏風」(『立教大学大学院日本文学論叢』第

六号 二〇〇六年八月) * 全図掲載、モノクロ版

③海の見える杜美術館蔵奈良絵貼交屏風 * 奈良絵本の絵を貼付

・『物語絵 奈良絵本と絵巻に見る古人のこころ』(海の見える杜美術館・館蔵選② 二〇〇六年七月)

* 「御行暴風に遭遇」掲載

【断簡】

①石川透氏蔵 奈良絵本13図

・石川透氏『奈良絵本・絵巻のたのしみ―おとぎ話のはじまり 展示解説』(二〇一二年五月、松花堂美術館)

・石川透氏『奈良絵本を見る2 展示解説』(二〇一九年一〇月、八木書店古書部) * 「かぐや姫の養育図」、「勅

使房子翁夫婦に面会図」掲載

②石川透氏蔵 奈良絵本15図（長大図3図）

・二〇一八年八月「奈良絵本・絵巻国際会議」展示

・「奈良絵本を見る 展示解説」（二〇一九年一月、八木書店古書部）*「かぐや姫の養育図」「かぐや姫月を見て物思いする図」掲載

③曾根誠一蔵 絵巻2図（2軸、別伝本）*「御主人王慶と対面図」、「翁、帝派遣の屋根上兵士と会話図」

④立教大学蔵 絵巻1図 *「勅使、帝に報告図」

【図絵剥離伝本】

①小学館本 三巻

*磯部祥子氏は『チェスター・ビーターライブラリー 絵巻絵本解題目録』（勉誠出版 二〇〇二年三月）で、「詞書のみ、挿絵はなく、絵を入れるべき空白が各所にある」（36頁）と記す。絵を剥離して全18図の【画帖】「②小学館本」に仕立てた欵。

②大阪府立中之島図書館本 三冊 全11図分空白（上4・中3・下4面）*23・6×17・6 糎

③曾根誠一本 三冊 享保頃 全11図分空白（上4・中3・下4面）*23・4×16・7 糎

④東洋文庫本（岩崎文庫）三冊 全12図分空白（各冊4面）*23・2×16・9 糎

・国文学研究資料館マイクロフィルム

⑤花園大学本 二冊（上巻欠、横型大本）9 図分空白（中5・下4面）*17・4×24・5 糎

『竹取物語』奈良絵本・絵巻の図絵概説

・思文閣古書資料目録『和の史』第二六一号掲載本

⑥立教大学小嶋菜温子氏旧蔵丁本 三冊 絵を欠脱

⑦龍谷大学中川文庫本(乙本) 三帖 全15函分空白(各冊5面) *17・1×12・〇糎

(そね・せいいち／本学特任教授)